

製品名: ルナティック・フリンジウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13491**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	LFNG
別名	LFNG; Beta-1; 3-N-acetylglucosaminyltransferase lunatic fringe; O-fucosylpeptide 3-beta-N-acetylglucosaminyltransferase
遺伝子 ID	3955.0
SwissProt ID	Q8NES3
免疫原	抗血清はヒト LFNG 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

背景

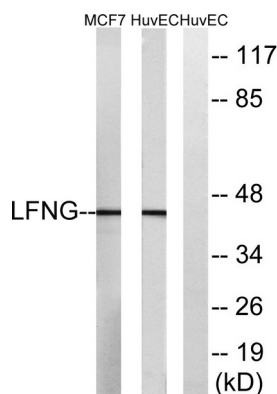
この遺伝子は、ラジカルフリンジ遺伝子およびマニックフリンジ遺伝子を含むフリンジ遺伝子ファミリーのメンバーです。これらの

遺伝子はいずれも、Notch シグナル伝達経路において胚発生の境界を定義する、進化的に保存された糖転移酵素をコードしています。ゲノム構造は他の糖転移酵素とは異なりますが、フリンジタンパク質はフコース特異的な β -1,3-N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼ活性を有し、Notch 上の O 結合型フコース残基の伸長を誘導し、Notch シグナル伝達を変化させます。この遺伝子産物は、1 回通過型 II 型ゴルジ膜タンパク質であると予測されていますが、マウスやショウジョウバエの関連タンパク質 (PMID: 9187150) と同様に、分泌され、タンパク質分解を受ける可能性もあります。この遺伝子の変異は、常染色体劣性脊椎肋骨異形成症 3 型と関連付けられています。異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーション、代替産物: 一部のアイソフォームでは実験的確認が不足している可能性があります。触媒活性: UDP-D-GlcNAc から β -D-GlcNAc 残基をフコシル化タンパク質受容体のフコース残基に転移します。注意: ここに示す配列は、Ensembl 自動解析パイプラインから得られたもので、予備データとして考慮する必要があります。疾患: LFNG の欠陥は、常染色体劣性脊椎肋骨異形成症 3 型 (SCDO3) [MIM:609813]の原因です。常染色体劣性脊椎肋骨異形成症は、椎骨および肋骨の分節欠陥を伴う、重症度が様々なまれな疾患です。主な骨格奇形には、椎骨癒合、半椎骨癒合、特定の肋骨癒合、その他の肋骨奇形などがある。胸郭および脊椎の変形 (重度の側弯症、後側弯症、および前弯症) は、奇形の自然な結果であり、小人のような外観につながる。胸郭が小さいため、乳児は呼吸不全や呼吸器感染症を繰り返し発症することが多く、生後 1 年以内に生命を脅かす合併症を引き起こす。機能: Notch 分子の細胞外ドメインにある EGF 様リピートに結合した O 結合型フコース残基の伸長を開始する糖転移酵素。JAGGED1 と NOTCH2 の結合を減少させるが、DELTA1 の結合は減少させない。体節の分節化とパターン形成に必須の媒介因子。、オンライン情報:Beta-1,3-N-acetylglucosaminyltransferase lunatic fringe,オンライン情報:GlycoGene database,PTM:可溶性形態は、タンパク質分解処理によって膜形態から派生する場合があります。、類似性:グリコシルトランスフェラーゼ 31 ファミリーに属します。、

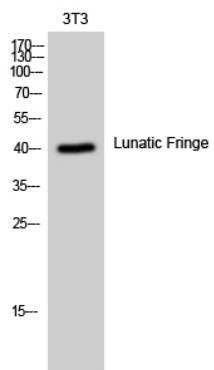
研究分野

ノッチ;

画像データ



LFNG 抗体を用いた HUVEC および MCF-7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 希釈の Lunatic Fringe ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析